



リモコン操作だけで
ラクラク移し替えられる
“自動”患者移送装置

多種多様な生産現場で、自動化や省人化のシステムをトータル提案

「開発から製造、納品までの全工程で責任を負うメーカーでありたい」という思いで創業したのが1985年。多種多様なニーズに合わせて最適な装置や設備をオーダーメイドで製造する、自動化および省人化機械の設計・製作を主力事業としています。

設計から加工、組立、制御、据付までを一貫生産体制で行い、現在は、ロボットシステムを活用した自動化装置を得意としています。また、自社製品の開発にも力をいれており、金属にタップを加工するためのタップユニットやタップ加工専用機をはじめ、ゴムカット機やトムソン型と呼ばれる抜型でプラスチック・紙などのシート状の材料を打ち抜くトムソンプレスなどを製品として販売しています。



ロボットシステム例

抱えずに、リモコン操作のみで移し替える「“自動”患者移送装置」

患者あるいは被介護者が寝ているベッドから、身体を抱えずにリモコン操作だけで移し替えることのできる「“自動”患者移送装置」を展示します。スライド機構の工夫により、スライドシートが患者（または被介護者）とベッドの間にスムーズに入り込んで、そのままベッドに移し替えるもので、ベッドシートや衣類を引きずったり巻き込んだりする心配は全くありません。

開発の発端は、もともとあった同様のベッドの重量が200kg以上と非常に重いうえ、大変高価だったため需要がなく、改良の依頼を受けたことでした。ベッドと呼んでも電動で動く機械であり、同社が長年に培った技術を活かしてよりコンパクトに、そして軽量なものを開発しています。現在は病院や介護施設での需要が見込まれますが、将来的には重量を約50kgまで軽くし、コストも低く抑えることで個人宅での利用を目指しています。



スムーズに移し替えるスライド機構を採用

超高齢社会と人手不足の社会課題の解決に貢献を

「“自動”患者移送装置」は、介助をする側とされる側の両方にとって快適なものであり、現在の医療・介護業界の課題の一つである人手不足の解消や肉体的負担の軽減に役立つものと確信しています。

これまで基本的に下請は行わず、自社で開発したものを自社で販売することにこだわってロボットシステムを活用した自動化装置などに取り組んできた会社ですが、今後はBtoC、つまり一般の方にも使っていただける製品づくりにも取り組んでいきたいと考えています。「“自動”患者移送装置」についても、親しみあるネーミングに全社員が参加し「HAKOベッド」と名付けられています。



主力製品の自動タップ加工装置「CANTAP」

企業概要

所在地 〒587-0061
堺市美原区今井88-1
TEL 072-289-7207
設立年 2000年
資本金 1,000万円
従業員 17名

公式サイト

さかしる



代表取締役
古賀 弘司 さん

Expo'70 と同じ舞台に、当社の技術が並ぶことに感動します

今回の出展は、当社が「“自動”患者移送装置」の開発に取り組んでいることを知った堺市産業振興センターの担当者から、万博のテーマに合った製品ではないかと出展を勧められたのがきっかけです。

1970年に開催された大阪万博には、高校生の時の修学旅行で行きました。近未来の技術が数多く展示されていて、3日間、無我夢中で会場を回ったのを覚えています。身体への負担の大きい介護については、日本だけでなく世界共通の課題です。大阪・関西万博で、当社が開発した技術を海外の皆さんにも見ていただくと考えただけでワクワクしています。

事業内容

自動化装置、専用機、加工機の
開発・製造

主な取引先（納入先）

金属加工メーカー、金属製品
メーカー、医療・介護器商社

主な製品・サービス等

型内タップユニット、マイクロタップ
自動タップ加工機カントップ切断機